三重の木

「三重の木」で家を建てた人たち

実例集 Vol.8

三重県木材協同組合連合会

1

「置屋根」と自然素材で夏を涼しく 施主も参加した木と土の家

菰野町Mさん邸（30代夫婦と子供2人）

「子どもの成長と共に歩む家」が、Mさん夫妻の希望だった。

建てるなら和風で。漠然と思っていた夫妻は、池山琢馬さん（一峯建築設計）の手がけた住宅の完成見学会で、木や土をのびのびと使った造りに、これだと思ったという。

床、天井、壁板は、水回りの一部を除き、すべて無垢のスギを使用。家族で多くの時間を過ごす居間は、縁側から台所まで極力仕切りを取り払い、一続きの広々とした空間としている。

太い梁を露出させ、構造材の仕口を込み栓で結合するダイナミックな造りは、一見コストが高そうだが、節材や、虫食い跡の残る材をうまく利用すれば、コストダウンが図れるし、それによって林業も守られる。

えつりかき、土壁塗り、三和土固めなどの工程は、職人による指導のもと、施主一家のほか、友人やご近所も参加しての賑やかなワークショップ形式で行われた。

「みんなで関わり合いながら徐々にできあがっていく我が家に、愛着が深まっていきました」

池山さんの提案した「置屋根」は、屋根を家本体から切り離し、通気をよくする工夫で、夏場、屋根裏の温度上昇を抑え、湿気を逃がす。蔵の建築によく用いられる手法だという。

1／ たたき土間の玄関には、カウンター状の収納が造り付けられている。
2／太鼓梁がダイナミックなリビング・ダイニング。畳スペースや広縁もあり、家族でのびのび過ごせる。
3／2階部分を低くし、安定感のある外観。玄関先は漆喰仕上げで明るい。郵便受も木製。

●設計・施工／一峯建築設計　〒514-1252 津市稲葉町1-21
TEL.090・1097・5606　http://hitomine.com/
●納材／江戸屋製材ほか
●建築坪単価　約63万円（設計・監理別）

玄関ホールの奥にある階段。柱はヒノキが中心で、床、壁、天井などの板材はすべてスギだ。

2

木・土・石・瓦・畳…
職人技で建てる伝統工法の家

鈴鹿市Kさん邸（30代夫婦と子供2人）

茶道をたしなむ夫、二人目の子をお腹に宿した妻の希望は、健康的で頑健な和風の家だった。

住宅展示場を巡るも、デザイン重視で、工業製品を多用するメーカー住宅に共感できなかった夫妻は、オープンハウスで「おおしま家大工店」（大嶋健吾代表）の伝統工法を貫く姿勢に共感。家づくりを託すことにした。

一階部分をスギ板の縦張り、二階を漆喰塗りとして日本瓦を載せた外観は、若い夫婦の住まいとは思えない落ち着いた佇まい。

構造を現しにした内部は、柱などの構造材はヒノキ、床や天井裏などの板材はスギ、小屋裏の梁はマツ、壁は左官仕上げの土壁と、どこにも新建材の類は見当たらない。

「木は地震の揺れをしなやかに受け止め、瓦は雨音を消して効率よく水を流すとともに、夏の日射しを遮ってくれる。土壁は呼吸して湿度を調節し、保温や断熱効果も高い」

伝統工法に則りつつも、木の天井や土壁だと、どうしても屋内が暗くなりがち。そこで玄関ホールを吹き抜けとし、屋根に天窓を設けて光を行き渡らせ、コンクリ基礎と土台の間には、湿気を避けるため御影石を挟むなど独自の工夫も。

自然素材の良さもウィークポイントも知り尽くして建てられた家は、快適に違いない。

1／1階をスギ板張り、2階部分を漆喰仕上げとした外観。撮影時は戸袋が未装着。
2／茶室の用もなすよう炉が切られた和室。リビング、寝室も畳敷きだ。
3／スギの踏み天井とされた2階廊下。吹き抜けから、階下の気配が感じられる。

●設計・施工／おおしま家大工店株式会社
〒510-8105 三重郡朝日町向陽台2丁目1-9
TEL.059・329・5763 http://www.yadaiku.jp
●納材／（株）小山商店
●建築坪単価 約80万円（設計・監理含）

吹き抜けとなった玄関ホール。構造材はヒノキ、板材はスギ。壁は左官仕上げの土壁。

三重の木

3

中央の広い廊下が各室をつなぐ モダン和風のワンフロア

津市Sさん邸（50代夫婦と子供2人）

一瞬、旅館かと見まごう。玄関からまっすぐに奥へと延びる幅広のヒノキ廊下。天井からは、ルーバー越しの間接照明が照らす。

ゆうにLDKがとれそうなほど贅沢な廊下の両脇に、ダイニングや和室が配置されている。部屋のほとんどが和室というのも珍しい。

モダン和風というのだろうか。使われる材や建具に伝統建築の技を感じさせながらも、全体は現代的なテイストでまとめられている。

「年を重ねてからの我が家でしたから、落ち着く日本家屋と決めていました。他を犠牲にしても、この広い廊下がほしかったんです」

オーナー夫妻は、転勤族として様々な住居を経験してきた。家族四人で暮らす初のマイホームを思い描いた時、以前に借り受けて暮らした、日本家屋の住み良さが脳裏に甦ったという。

二層屋根の外観は二階建てに見えるが、実は平屋で、頭上に十分なスペースを持たせ、空気の緩衝帯としているのだ。

日射しを調節する深い軒。国産い草の畳が敷かれた土壁塗りの和室。自然素材の調湿効果で、梅雨時でもジメジメせず、冬場は保温断熱効果により、ストーブ二台で家中が暖まるという。

木材店直営の工務店による設計・施工が、良材を用いながらリーズナブルな価格を実現した。

1／部屋は和室が中心で、畳には美しく健康的な国産い草が使われている。
2／訪れる人の誰もが驚く広大な玄関。ヒノキの廊下が奥までつづく。
3／2階建てに見える堂々とした外観。ハイサイドライトを設けるべく2重にされた屋根が天井高をかせぎ、吹き抜けのような解放感を与える。
4／浴槽と腰上にヒノキを用いた浴室。芳香に包まれてリラックスできる。

●設計・施工／（株）ヘリテッジホームデザイン　●納材／丸栄木材（株）
〒514-0058 津市安東町328　TEL.059・222・2240　http://www.hhd.co.jp
●建築坪単価　約70万円（設計・監理含）

三重の木

4

自然と素材のポテンシャルを活かす二層屋根の、スギと漆喰壁の平屋

松阪市Sさん邸（50代夫婦と子1人）

桜の古木に向かう終の棲家として建てられたのは、東西に仲びる長方形のシンプルな平屋。スギの骨格を白い漆喰壁で囲い、鋼板葺きの屋根で覆っている。

外観のアクセントとなっているのが、東西の壁面に張られた焼杉板と、自然系塗料で木肌に近い色に仕上げられたスギの縦格子戸だ。戸袋のごとく大開口の両側に配された格子は、自在にスライドでき、日除けや防犯の用をなす。

外壁を雨から守り、夏の日射を遮りつつ冬日を屋内へ招く緩勾配で軒の深い屋根は、間に風を通して夏場の熱気を抜く二重構造。いわば、屋根の外断熱だ。

リビングを中心に、濡れ縁が添う南面には和室と洋室を、北面には収納とユーティリティーを直線的に配置。個室を最小限にしたおかげで、建坪の約半分を占める共用空間が実現した。

現しの構造材は仕口と込み栓で結合され、見えるところに金属ボルトは使われていない。

「北西の針葉樹が冬の季節風を防ぎ、南の広葉樹は、夏は木陰をつくり、冬は落葉して日射しを導いてくれます。給水は、飲用以外を井戸水で賄い、給湯は太陽熱とガスのハイブリッド」

一見何の変哲も無く見える家には、自然と素材の力を利用する工夫が随所に隠されていた。

南面外観。冬場は桜が葉を落とし、日射しを屋内へ招く。木の格子戸はスライド式。

天井高の窓から桜を眺めるリビング。柱や床材はスギ。

1／和風情緒に包まれる玄関。格子戸に手掛けや鍵がなく、すっきりとしている。
2／玄関へもリビングへもアクセスできる寝室。
3／南面に添う濡れ縁。軒下の垂木を見ると、屋根が2層構造になっているのがわかる。格子建具は、スライドさせて日除けや防犯に。

●設計・施工／杉谷建築工務　〒515-2109 松阪市小野江町473-1
TEL.0598・56・4895　sugitani-koumu@mti.biglobe.ne.jp
●納材／江戸屋製材
●建築坪単価　約65万円（参考）

三重の木

5

子供たちの「木育」にも新しいのに懐かしい焼杉の家

伊勢市Sさん邸（30代夫婦と子供2人）

施主一家が以前住んでいた家は、築六十年の日本家屋。天井が低くて薄暗く、夏は涼しくても冬場は冷たいすきま風が吹き込んだという。

快適な今風の家にしたいが、敷地内には両親の家や蔵があり、周囲には黒い板囲いの家が多く、調和を乱すような色やデザインは避けたい。

そこで、外観は旧家屋のイメージを踏襲しつつ、内部は開放的な間取りにするプランが固まった。

緩やかな勾配の切妻屋根は、一見すると平屋のよう。日よけ雨よけになる軒は深く、中庭に面した濡れ縁にはブランコが下がっている。

屋内に入ると印象が一転。スギ床のリビング・ダイニングと和室が連なり、大型建具からは庭の緑が目に飛び込んでくる。リビングの上部は吹き抜けで、日中は照明いらずの明るさだ。

スギの造り付け家具と、旧宅で使われていた建具類がしっくり馴染み、新しいのに懐かしい雰囲気を醸している。設計者は、日本家屋の構造にゆとりある空間をつくるため腐心したそうだ。

一家は建築を前に、工務店とともに熊野の製材所を見学。長女（小2）は夏休みの自由研究に「わたしの家ができるまで」と題して、木の伐採から加工、竣工までをレポートした。構造上外せなかった磨き丸太の柱は、長男の木登り場に。

この家は「木育」にも役立っているようだ。

1／天井高を抑えたロー&ワイドなプロポーション。周囲と溶け込む焼杉板の外壁は施主の要望から。
2／中庭に面した軒の深さは約3メートル。雨の日でも濡れ縁のブランコで遊べる。

3／和室から見たリビング・ダイニング。境界の壁に戸袋を設け、引き戸を収納することで、法事など大人数の収容も可能なつくりとなっている。
4／スギの床、珪藻土塗りの壁、ヨシ天井の玄関。旧宅で使われていた丸窓、引き戸が落ち着いた雰囲気をかもす。
5／吹き抜けのリビングには床暖房を装備。2階の両側に子供部屋が配され、どこにいても家族の気配が感じられる。

- 設計／村野誠建築設計室
- 施工／なかむら建設株式会社　〒516-0053 伊勢市中須町609
  TEL.0596・25・6363　http://nakamurakensetu.jp
- 納材／野地木材工業
- 建築坪単価　約60万円（参考）

三重の木

6

床を三層にして視線をスキップ 晴耕雨読な終の住み処

紀北町Hさん邸（60代夫婦）

晴耕雨読のスローライフを送るべく、施主が建築家にリクエストしたのは、健康的な居住空間と、蔵書を収める大きな書棚だった。

「骨組みはすべて『三重の木』認証材で、柱などの垂直部にはヒノキ、梁などの水平部にはスギを使用しています。床はウッドピアのスギ圧密材で、壁は珪藻土仕上げとしました」

設計を担ったのは、地域材と伝統工法による家造りを推進する宮原良雄さん。

架構が現しになったリビングは、キッチンに立つ夫人と目線の高さを合わせた掘り炬燵式の小上がりと、ベンチ、フロアの三層床。食事は畳敷きの小上がり、テレビ鑑賞はベンチ、食後の一服は掃き出し窓に腰掛けてと、シーンに合わせて視線の高さを変えられるのが楽しい。

リビングの隣には、壁一面の書棚が。通常より左右のピッチが広いため、構造材といって差し支えないヒノキが支柱に使われている。

農作業後、汚れた履物で入ったり、服を脱いだりできるよう、裏口にはシンクを備え、洗濯機を置く土間があり、とても使い勝手がいい。

「手の届く範囲だけ、蜜ろうワックスを塗ったんです。本物の木の家は安らぎますね」

使い込まれ、まっさらな木がほどよく艶を放つ頃、さらに味わいを深くしているだろう。

1／上がり框を2段にした広い玄関。下駄箱はスギの造り付けで、床はスギ圧密材。
2／大量の蔵書を収納する壁一面の書棚。支柱にはヒノキの角材を使用。
3／小屋裏を現しとしたリビング・ダイニング。掘り炬燵式の小上がりまで、フロアは3段階にスキップし、視線を変える。キッチンの開口にはブラインドを装備。

●設計／宮原良雄建築設計事務所
〒519-3205 北牟婁郡紀北町紀伊長島区長島1461-1 TEL.0597・47・2967
●施工／中村設計施工 ●納材／小野製材所
●建築坪単価 約67万円（地盤改良・設計・監理別）

仏壇をビルトインした2間つづきの和室。間仕切りの襖は全て戸袋に収納できる。

長閑な山村になじむ外観。元は棚田だったため、3年掛かりで地盤改良された。

三重の木

7

外へは閉じて内へは開いた尾鷲ヒノキの白い家

尾鷲市Aさん邸（30代夫婦と子供1人）

白い長方形を組み合わせたモダンなフォルムは、とても木の家とは思えない。外周をめぐると、開口部が少なく、閉鎖的な印象さえ受ける。これこそ、設計者の周到な企みであった。

「白を基調にした明るい家で、防犯対策も怠りなく。お客を迎えたり、家族がくつろぐ玄関やリビングには、尾鷲ヒノキをふんだんに」

施主夫妻の要望を具現化したのは、館（やかた）設計事務所を主宰する水谷豊さんだ。

あえて大開口をつくらず、東西に小さな中庭を二ヵ所設け、塀を建物の外壁と一体化させるとともに、リビングには百四十四個の乳白ガラスブロックを積み上げた。ゆえに外からは閉じて見えるが、中部には光や風が舞い込む。

玄関ドアを開けると、すがすがしい香りに迎えられる。床に張られているのは尾鷲ヒノキ。白い壁も、実はヒノキの塗装である。

リビングも同様で、床は無垢ながら、キッチン・カウンターの腰壁や、ユーティリティーへのドアは白くペイントされている。

「迷いましたが、塗って正解でした。訪ねてくる友人は、よく見ると木なので驚いてますよ」

モダンな外観とは裏腹に、木の温もりがしっかりと感じられるAさん邸は、地元材の新たな可能性を示唆してくれている。

1／乳白色のガラスブロックと中庭から光が降り注ぐリビング。キッチン・カウンターの側面は、床と同じくヒノキだが、白くペイントしてある。
2／玄関ホール。床はヒノキで、壁もヒノキを白くペイント。
3／リビング西側のウッドデッキ。東側にも坪庭があり、ともに建物と一体化した塀で囲まれているので、外部からの視線を遮りつつ、光と風を屋内へ招く。
4／和室の建具もヒノキ製。右の引き戸がリビングへとつながり、左の戸を開けると坪庭がある。

設計／館設計事務所　〒519-2404 多気郡大台町佐原551-2
TEL.0598・84・0500
施工／丸京建設　納材／カネ勇製材所
建築坪単価　約65万円（設計・監理別）

近ごろ「サスティナブル sustainable」という言葉を目にするようになりました。「持続可能」という意味で、環境を保全しつつ、食物やエネルギーなどの資源が、持続性のある社会を目指そうというもの。スローやロハス、地産地消といったスローガンも、この考えに基づいています。

石油や鉱物などの地下資源には限りがあると言われますし、そのほとんどを海外からの輸入に頼っているわが国の現状は、とても持続的とは言えません。

日本は国土の三分の二を森林に覆われた「緑の列島」です。木は、伐って利用し、植えるというサイクルにより、太陽と雨水がある限り、永久に再生産可能な資源です。木材の利用が、林業の再生と森林の適正な整備につながります。

私たちができるのは、積極的に近くの山の木を使うこと。三重で家を建てるなら、品質の確かな「三重の木」で。

本冊子は、「三重の木」認証材を使って、認証工務店・建築家が三重県内に建てた住宅の施工実例集です。建築坪単価は、住宅の大きさや建築地によって異なりますので、あくまでも参考程度にお考え下さい。

三重県木材協同組合連合会 http://www.mienoki.net
三重県津市桜橋1丁目104　TEL 059-228-4715　FAX 059-226-0679